

働きやすさ向上 新社屋

新社屋「キミカ本館」



キミカ、空間拡充 環境負荷減

キミカ（東京都中央区、笠原文善社長）は4日、千葉県富津市にオフィス機能や研究開発機能を、品質検査機能などを集約した新社屋「キミカ本館」を竣工する。新社屋ではオフィスエリアを従来比3倍、研究エリアは同4倍に拡充した。社員間交流を促す設計にして生産性向上につなげる。

キミカ（東京都中央区、笠原文善社長）は4日、千葉県富津市にオフィス機能や研究開発機能を、品質検査機能などを集約した新社屋「キミカ本館」を竣工する。新社屋ではオフィスエリアを従来比3倍、研究エリアは同4倍に拡充した。社員間交流を促す設計にして生産性向上につなげる。

■ □
 新社屋の延べ床面積は3450平方メートル。社員の働きやすさ向上のため、空調には温度にむらがない次世代型輻射式空調を

採用。熱源は地下水で一般的な空気空調に比べて50%以上の環境負荷削減を実現した。

災害発生時の事業継続計画（BCP）に基づき建物全体を60%底上げしたほか、研究エリアと電気室は2階に配置。停電時の対応のため、非常用発電機も併設した。建物の耐震性能を付与し、避難安全検証法で災害発生時など有事の際の社員の安全を確保する。

研究エリアは理化学試験エリアに加え、機器分析室や微生物試験室、安定モニタリング室など機能ごとに区画を分けた。医薬品原薬や医療機器原料など医療用材料製造に必要な試験検査環境を整備し、医薬品製造品質管理基準（GMP）に対応する。

アルギン酸の用途開発を手がける「食品アプリケーションラボ」には製麺、製パン設備を設置し、約100人を収容できるセミナールームを併設した。

キミカは将来的にセミナールームで地域の子どもたちを対象にした科学実験教室の開催なども検討する。

（千葉）

BCP対応 社員の安全確保